

「中世に栄えた放生津と現代の伏木富山港（新湊地区）を訪ねる」実施報告

1 目的

中世に守護所が置かれ湊町として栄えた放生津の足跡を訪れるとともに、現在の港、日本海側の総合的拠点港に選定された伏木富山港（新湊地区）を視察し、地域や社会における港湾の役割について歴史的な視点から考える。

2 主催 富山県・日本海学推進機構

3 後援 国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所、射水市教育委員会

4 日時 平成24年8月30日（木）13:20～16:40

5 場所 射水市新湊地区（放生津史跡、富山新港）

6 参加者 21名（一般公募）

7 参加費 240円（射水市新湊博物館 入館料（団体））

8 実施内容

13:20 集合・受付…射水市新湊博物館

13:30～14:45 <中世の放生津を巡る>

○射水市新湊博物館……学芸員による説明

鎌倉時代に越中の守護所が設けられ、室町時代には10代将軍足利義材が京都を脱出して放生津に下向して「越中幕府」ともいべき政権が現出するなど、中世に栄えた放生津について学んだ。

○中世放生津のミニ史跡巡り……市観光ボランティアによる説明

・放生津城跡

放生津城があった放生津小学校グラウンドに立ち、現在、遺構は地中に埋もれて見えないが、城の規模や配置について説明を受ける。

・足利義材銅像

放生津橋のある10代将軍足利義材の騎馬像及び坐像を車上から見学

・放生津八幡宮

越中国司の相伴家持が豊前の国の宇佐八幡神を勧請したのが始まりと伝えられている。放生津城主の名越氏、神保氏が造営・再興した。また、県指定無形民俗文化財の築山行事などについて学んだ。



14:50～16:20 <現代の伏木富山港を知る> 海王丸パーク（新湊地区）

○みなと交流館、乗船による富山新港視察…県土木部港湾課より説明

※2班に分かれて交互に乗船視察と概要説明

・「なごかぜ」乗船による富山新港視察

船上より岸壁等の港湾施設や係留中の貨物船、開通間近の新湊大橋などを視察



・「みなと交流館」での伏木富山港の概況説明

伏木富山港の特徴や入港船舶、取扱貨物、国際コンテナ取扱量の推移、日本海側の「総合的拠点港」に選定された機能などについて学んだ。



○多目的国際ターミナル視察…県富山新港管理局、富山新港荷役施設管理運営組合より説明

環日本海諸国、東南アジアの港を結ぶ国際定期コンテナ航路やコンテナヤード、ガントリークレーン等施設について学んだ。



16:30 解散…射水市新湊博物館